



# 夢のつばさプロジェクト

## これまでの主な活動のご報告

人間情報学会会長  
お茶の水女子大学名誉教授 室伏きみ子

「夢のつばさプロジェクト」が始動して、今年（2014年）4月に4年目を迎えました。2011年の東日本大震災で親を失った子どもたちを長期間にわたって支援することを目的として、震災直後から続けられている活動です。「ウェアラブル環境情報ネット推進機構」（NPO法人WIN）、「お茶の水学術事業会」（OAA）、「全国てらこやネットワーク」、「遺伝カウンセリング・ジャパン」（GCJ）の4つのNPOが実施母体となっています。

最初は「無謀だ」などとも言われ、どうなることかと思われていましたが、幸いなことに多くの企業や個人の皆様のご助力を頂くことができ、活動を続けていくことができました。

ここでは、改めて「夢のつばさプロジェクト」の概要をご報告し、この活動を支え、見守って下さる皆

様への感謝の気持ちを伝えさせていただきます。

### 活動の立ち上げ

2011年3月11日の大地震・巨津波は、2万人を超える死者・行方不明者を出し、多くの家屋財産を破壊流失させるという壊滅的な被害をもたらしました。さらに東京電力福島第一原子力発電所の事故によって、放射能による環境汚染という災禍がもたらされました。

その結果、多くの子どもたちが父母や家族を失いました。私たちは、それらの子どもたちを支援して、健やかな育ちを見守りたいと願って、同年4月に「夢のつばさプロジェクト」を立ち上げました。並行して、お茶の水女子大学の同窓会の助力を得て、被災各県やいくつかの市町村の教育委員会や児童相談所などと連

携関係を構築することができ、孤児・遺児の状況把握が可能となりました。教育委員会や児童相談所の方々には、子どもたちとの連絡業務を引き受けていただいております。

### 自らの夢を実現する力を育てる

このプロジェクトは、孤児・遺児となった子どもたちを成人するまで見守り、将来に向けて自らの夢を実現する力を育てていこうという理念の下、多くの方々のご協力を得て実施しているものです。

具体的には、夏・冬の学校の長期休みに宿泊型のキャンプ（原則3泊4日）と、春・秋の日帰りの交流会を行い、活動を共にする子どもたちが、心を開ける仲間を作り、さまざまな体験をして学び合い、将来に向けてこの活動を自ら担っていくことができるように支援しています。ボランティアの大学生らが子どもに直接関わって活動し、それを大人スタッフが物心両面から支援していくという仕組みで続けています。

活動は、前掲の4つのNPO法人を母体として、お茶の水女子大学、東京大学、明治学院大学、早稲田大学、日本文化大学、国土館大学、東京学芸大学、一橋大学、明治大学、埼玉大学、津田塾大学などの学生ボランティア（約50名が登録済み）



と約 20 名の社会人が実施部隊として参加しています。

また、特別協賛として株式会社ブリヂストンが、キャンプ活動の拠点となる保養所の提供と交通費を支援、株式会社富山房インターナショナルが、この活動を支えるボランティアを支援する役割を担っています。その後、さらに多くの企業・団体や個人の方々のご協力を頂くことができるようになりました。



## これまでの活動実績

簡単に活動実績を紹介します。(詳細はホームページ <http://www.npo-ochanomizu.org/tsubasa/> をご覧ください。夏と冬のキャンプは本誌でも紹介しています)。

2011年 夏のキャンプ (8月、奥多摩)、クリスマスキャンプ (12月、奥多摩)

2012年 春のキャンプ (4月、花巻・遠野)、保護者との懇談会 (5月、仙台)、夏のキャンプ (8月、軽井沢)、保護者との懇談会 (10月、仙台)、クリスマスキャンプ (12月、軽井沢)

2013年 春の交流会 (4月、仙台)、保護者との懇談会 (5月、仙台)、夏のキャンプ (8月、奥多摩)、保護者との懇談会 (10月、仙台)、クリスマスキャンプ (12月、奥多摩)

2014年 春の交流会 (4月、仙台)、夏のキャンプ (8月、奥多摩)、秋の交流会 (10月、仙台)

## その他の活動

プロジェクトの関係者たちは、大震災直後から、震災や原発事故の復

旧作業にあたる方々への激励の活動や、日本赤十字社やその他の団体への寄付を行うことで、被災した方々への支援を開始しました。また、社会に広がる放射線への不安や風評被害を低減するために、大震災と原発事故の実態を科学的に理解し適切に行動するための一助として、「サイエンスカフェ」(日本学術会議、富山房インターナショナル共催)における東日本大震災特集を企画・開催し、2012年3月11日に『サイエンスカフェようこそ!—地震・津波・原発事故・放射線』を刊行しました。

NPO 法人 GCJ (理事長: 金澤一郎) では、遺伝カウンセリングの専門家による放射線被曝に対する正確な知識の普及を目指す冊子の発行を計画し、2012年4月に日本遺伝カウンセリング学会などとともに、『放射線被曝への不安を軽減するために』を刊行して、東北各県の医療従事者や教育関係者、一般の方々へ配布や、HP への掲載を行いました。

## これからの活動

今後、大学などへ進学する子ども達のための進学相談や奨学基金の設立なども計画しており、子ども達を

育てて下さっている保護者の方々とお会いしてお話を伺う活動も続けていきます。子どもたちが自立した大人となって、自ら道を切り開いていく力を身に付けることができるよう、子どもたちが成人するまで、見守って行きたいと考えています。一番小さな子どもはまだ7歳ですので、これから少なくとも13年は頑張りたいと考えています。

皆さまのこれまでのご支援に感謝申し上げますとともに、今後ともお励まし、ご支援いただけますよう、心からお願い申し上げます。

## 【ご寄付のお願い】

ご協力いただける範囲でご寄付賜りますれば幸いです。ご芳名、ご住所(連絡先)を下記までお知らせください。領収書をお送りいたします(税金控除の対象にはなりませんので、あらかじめご了承ください)。

【連絡先】事務担当 滝澤公子  
TEL/FAX 03-5978-5362  
E-mai: tsubasa@npo-ochanomizu.org

【口座】三井住友銀行大塚支店  
(店番号 227) 普通 1284200  
名称: 特定非営利活動法人お茶の水学術事業会理事長平野由紀子  
(この口座は、夢のつばさ専用口座です)